

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	金沢大学
整理番号	B05
構 想 名	徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、10年後の金沢大学のあるべき姿を「東アジアの知の拠点」として定め、それを実現するための7つの基本戦略の下に、ガバナンス改革、教育改革、研究力強化とグローバル人材の育成を目的に、国際化に向けた意欲的な取組を実行するものである。</p> <p>取組状況については、学修の定量的評価を行う e ポートフォリオと修学カルテの開発を積極的に行い、学生の学修履歴の可視化を進め、金沢大学<グローバル>人材スタンダード (KUGS) 達成度に関する評価との連携による多元的な評価方法を導入した。国際化教育を遂行するための特色ある仕掛けが施されており、実質的に学生の能力・志・意欲の向上に資するものとなっている点は評価に値する。</p> <p>国際化関連については、大学出身者で海外大学等の教育研究職に就いた者を中心に海外展開のサポートを行う「コラボラティブプロフェッサー (CP)」制度を充実させ、海外同窓会と協力して日本人学生の海外派遣や外国人留学生の受入れを拡大している。また、「金沢大学スーパーグローバル ELP (English Language Programs) センター」による教職員の英語力強化に向けた取組を行っていることも評価出来る。</p> <p>一方で、「英語による教授法」のトレーニングマニュアルの作成の遅れや英語のみで卒業出来るプログラムへの参加学生数が少ないこと、また、学生の語学レベルの向上については、改善策の策定が必要である。意欲的な高い目標を掲げている指標も多く、計画どおりの遂行が困難な場合もあろうが、間口を広げるのではなく、実効性のある柔軟な施策を実行することにより、今後着実な成果を挙げることを期待したい。</p>	